

2025 年度 卒業論文

黒字病院と赤字病院における
コスト要因の比較分析

武蔵大学 経済学部 経営学科 4 年
山下ゼミナール

赤間 美月

叶 佳奈

佐藤 寿咲

丸山 史織

本論文は、独立行政法人国立病院機構に所属する一般病院において黒字病院と赤字病院におけるコスト要因の比較分析を行うことにより、どの費用項目が赤字や黒字に影響を及ぼしているのか、また、赤字の要因が固定的に存在するのか否かを明らかにすることを目的としている。本研究における研究対象は、独立行政法人国立病院機構が令和6年度時点で公表している全140病院のうち、特定機能病院に該当する12病院、一般病床数より精神病床数が多い10病院、一般病床数より政策医療病床数が多い20病院、一般病床割合が50%未満である13病院を除外した計86病院である。分析方法は、病院の費用構造を把握するために、財務諸表に記載された費用項目を抽出し、それぞれの費用を医業収益で除してコスト比率を算出する。比較の対象とした費用項目は、診療業務費、給与費、材料費、診療材料費、医療消耗器具備品費、給食材料費、委託費、設備関係費、減価償却費、経費、支払利息、その他経常費用である。また、赤字病院群と黒字病院群の間で各費用比率の平均値に有意な差が存在するかを検証するためにt検定を実施する。本研究では、有意水準を5%とする。さらに、赤字への影響を調べるために費用を管理会計論に基づき変動費と固定費に分類し、t検定を行う。結果は、保険等査定減、給与費、委託費、材料関連費（診療材料費・給食材料費）、設備関係費及び減価償却費、経費及びその他経常費用はそれぞれ赤字病院が有意に高かった。以上のことにより、委託費や設備関係費、材料費や診療材料費、その他経常費は引き続き原価改善を行い、給与費や経費、減価償却費については人員や材料、契約、投資の適正性に注意を払うことなどのコスト管理を厳密に行うことで原価改善を図る必要がある。